

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M313I202	メディカルリスクマネジメント論 ( Medical Risk Management )	融合人材育成科目 先進領域融合科目群

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	2	2	後期	木・3	平松 和史、佐藤 祐貴子 内線：5406 E-mail：hiramats@oita-u.ac.jp

### 【授業の概要・到達目標】

安全・安心な医療の提供は、最も基本的な事項である。メディカルリスクマネジメントには、様々なエラーから生じる医療事故を防止する医療安全管理と院内感染を抑制する感染制御があることを理解する。各論として、医療安全管理を進めていく方策を講義し、医療機関等でのエラーの防止策について理解することを目的とする。また感染制御においても標準予防策や感染経路別予防策を理解し、実践できる能力を修得する。

具体的な到達目標	ディプロマポリシーとの対応					
	1	2	3	4	5	6
1. 医療上の事故を防止するためにはヒューマンエラーの防止をはじめ組織的なリスク管理が重要であることを説明できる。	○					
2. インシデントや医療事故の報告の意義と再発防止策の重要性について説明できる。	○					
3. インシデントや医療事故と合併症の違いを説明できる。	○					
4. 医療事故調査制度や産科医療補償制度の意義や仕組みについて説明できる。	○					
5. 医療過誤に伴う刑事・民事責任や行政処分を説明できる。	○					
6. 医療関連感染の原因究明や予防策を実施するための組織として活動について概説できる。	○					
7. 標準予防策や感染経路別予防策の必要性を説明し、実施できる。	○					
8. 衛生的な手洗いを実施できる。	○					
9. 個人防護具の着脱について実施できる。	○					
10. 針刺しや皮膚・粘膜曝露予防について、その意義や方法を説明できる。	○					

### 【授業の内容】

1	医療安全管理学総論 (法的知識、責任範囲を含む)
2	医療安全管理学各論 インシデント報告と再発防止の意義 (合併症と医療事故を含む)
3	医療安全管理学各論 重大な医療事故への対応 (患者急変時の対応を含む)
4	医療安全管理学各論 医療チームとしての医療安全と全国的な取り組み
5	医療倫理
6	感染制御学総論 標準予防策、感染経路別予防策
7	感染制御学各論 院内感染対策上重要な病原体
8	感染制御学各論 組織としての院内感染対策
9	感染制御学各論 針刺し・切創防止と医療従事者の健康管理
10	感染制御学各論 手指衛生と個人防護具着脱実習
11	採血、採血に伴う静脈路確保 (電解質輸液の注入を含む)、静脈路への成分採血装置の接続並びに操作、超音波検査における静脈路からの造影剤注入、持続皮下グルコース測定の注意事項と安全管理
12	上気道、下気道からの検体採取、喀痰吸引 (気管カニューレ内部からの採取も含む)、皮膚表在組織からの検体採取における注意事項・安全管理
13	直腸肛門機能検査、消化器管内視鏡検査による組織検体の採取における注意事項と安全管理
14	運動誘発電位・体性感覚誘発電位検査に係わる電極装着 (針電極含む)・着脱に伴う注意事項・安全管理
15	(学内実習) 採血、皮膚表在組織病変部からの検体採取、鼻腔拭い液・咽頭拭い液・鼻腔吸引液の採取、経口・経鼻又は気管カニューレ内部からの喀痰吸引

### 【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A：知識の定着・確認	○	手洗い、個人防護具着脱演習
B：意見の表現・交換	○	チーム医療演習

C：応用志向			
D：知識の活用・創造			
<b>【時間外学修の内容と時間の目安】</b>			
準備学修	なし（ h）。		
事後学修	講義内容の復習（ 1 h/日）。		
<b>【教科書】</b>			
特に指定しない			
<b>【参考書】</b>			
諏訪部章、高木康、松本哲哉『医療安全管理学（第2版）』医歯薬出版株式会社、2023年、ISBN978-4-263-22391-8			
<b>【成績評価方法及び評価の割合】</b>			
評価方法	割合	目標1	目標2
試験	100%		
<b>【注意事項】</b>			
<b>【備考】</b>			
教員の実務経験の有無			
教員の実務経験			
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無			
教員以外の指導に関わる実務経験者			
実務経験をいかした教育内容			
授業形態			